新しくふくらむ！

C'n scene news

千葉市美術館ニュース「C'n」94号

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

VOL. 94

［編集・発行］千葉市美術館　〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8　TEL. 043-221-2311　FAX. 043-221-2316　Chiba City Museum of Art　3-10-8 Chuo, Chuo-ku, Chiba 260-0013, Japan
http://www.ccma-net.jp/

［発行日］2020年6月30日
［印刷］株式会社 エイチケイ グラフィックス

Instagram　ccma_jp

Twitter　@ccma_jp

館長のつれづれだより　帰ってきた！どうぶつ大行進

「去年のいま頃は…」という言い方があります。去年の今頃は？ わたしたちは、ワシントンD.C.のナショナルギャラリーで「日本美術に見る動物の姿」の展示で忙しく動きまわっていました。と言うことが出来るのは、わたしではなく、当館上席学芸員の松尾知子です。わたしは、展示もほとんど終った、５月末に開会式直前の同地に到着、報道関係者の対応にあたりました。ワシントンは、野外に出るとすでに汗ばむ、初夏の気候と記憶します。

この展覧会については、美術館ニュース第93号に触れ、日経新聞にも展示作品から10点を選んで紹介したので、お読み頂けたかもしれません。現地に取材した読売、朝日、日経、共同通信も記事にしています。アメリカのメディアでは、ニューヨーク・タイムス、ワシントン・ポスト、ウォール・ストリート・ジャーナルなどの有力紙が、日曜版も含めて、紙面をかなり大きく削いで評論しています。

ここで、改めて言うことも無いかも知れませんが、この展覧会は、日本人が原始の時代から現在まで、動物たちとどのように接してきたか、また、愛好、保護、畏敬などの眼差しをもって、その姿を捉えていたかを、絵画、彫刻のほか、漆工、金工、木工、象牙、ガラス、陶磁といった、いわゆる工芸品、写真、書など、日本の造形芸術作品の全てを通して俯瞰し、それを確認するという試みでした。

この企画は、もともと米国側からの提案（ロスアンゼルス・カウンティー美術館日本美術担当学芸員・ロバート・シンガー氏）でしたが、わたしには腹案がありました。それは、千葉市の熊谷俊人市長の、市内に遺る貴重な文化財に対する深い理解と、その保護の精神と哲学に基づく、熱心かつ賢明な努力の成果である、市内・加曽利貝塚の国・特別史跡の指定と大いに関係があります。

この快事というか慶事に応えるために、考古学者、美術史家、美術評論が一同に会する国際シンポジウムの開催をわたしは計画しました。幸い、サイモン・ケーナー（英国・イーストアングリア大学）、ハブ・ジュンコ（米国・カリフォルニア大学バークレー校）、山下祐二（明治学院大学）ほかの諸先生方々のご参加も得、熊谷市長にもご登壇いただきました。

ここには当初、縄文研究の泰斗である小林達雄先生もご参加下さる予定でした。生憎、体調を崩され当日はご欠席でしたが、後日、先生から近著『縄文文化が日本人の未来を拓く』（徳間書房）をお送り頂きました。ご本には「縄文人は活動拠点を自然界の中に見つけだした」。つまり日本には、自然との共存共生を図ったという歴史がある。そこが「人類は自然を克服しながら、文化を築いてきた」と考えるヨーロッパの歴史とは違うと述べておられます。日本人の動物表現の思想的背景に何があるかを、ずっと考えていたわたしにとって、それは、まさに「目から鱗が落ちる」の思いでした。上記の読売新聞評には「動物表現の多彩さを現代と地続きで示した」とあり、水玉模様の草間彌生の創った犬と埴輪のイヌを同時に展示することで、日本の文化を古代から現在まで同じ地表で示し、興味をひきつけるともあったと記憶します。確かに日本の文化は、縄文から現代まで連続的に繋がっているのです。

前衛美術家の岡本太郎が自ら発信したように、縄文の造形に現代美術を見るといった視点。そんな発想による現代美術展の開催。縄文と現代を繋ぐアイディアに、その構想を発する特別企画展を、いつか是非とも千葉市美術館でしたいと密かにわたしは考えています。それはともかく、今次の緊急事態によって、予定されていた特別展が延期を余儀なくされ、急遽、新企画の任を負わされることになった松尾学芸員は、過去にも当館で動物をテーマにした展覧会を企画して、大きな成功を納めています。この度は、準備時間に不足の恨みを拭え切れないものの、米国での上記動物展の貴重な経験も存分に生かし、これまで未公開のものも含め、千葉市美術館の所蔵品を大いに活用し、わたしたちの動物に対する見方・接し方に、活性化を図るような新しい視点の展示を計画していることころです。リニューアル・オープンをお祝い頂き、多くの市民の皆様方々のご来館を、千葉市美術館職員一同、心よりお待ちしております。

［館長　河合正朝］

2020年7月11日（土）拡張リニューアルオープン！

千葉市美術館が広がります！

お待たせいたしました！　ついに千葉市美術館が拡張リニューアルオープン！

リニューアル後は、新たに 4 階と 5 階が美術館のスペースとなるほか、新しいミュージアムショップやカフェ、バル、レストランが続々オープン＊します。建物まるごと、ぜーんぶ千葉市美術館です。生まれ変わった千葉市美術館を、どうぞお楽しみください！

＊ミュージアムショップ、カフェ、バル、レストランは 7 月 11 日以降順次営業いたします。

リニューアル！
千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

4階

図書室 ～びじゅつライブラリー～

美術にまつわる図書約 4,500 冊をそろえたオープンな図書室です。子どもがはじめてアートに出会う絵本や、だれでも気軽に手に取れる美術雑誌や作品集など、図書を通じて美術にふれることができます。また、展覧会に関連する本の紹介や、読み聞かせ、トークイベントも実施します。

市民アトリエ

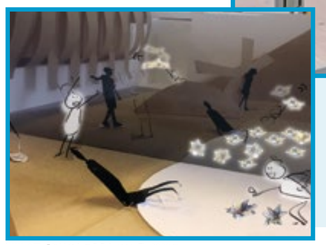
作品制作の場としてどなたでもご利用いただけるアトリエです。水道を完備した広いスペースを存分にお使いいただけます。ご希望の用途にあわせて、是非ご活用ください。

※利用にあたっては、ウェブサイトにて手続き方法をご確認ください。

市内の方からプレス機をご寄贈いただきました！　本格的な版画制作ができちゃいます！

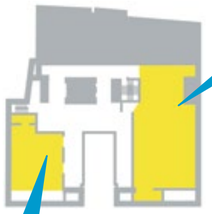
子どもアトリエ ～つくりかけラボ～

「五感でたのしむ」「素材にふれる」「コミュニケーションがはじまる」いずれかのテーマに沿った公開制作やワークショップを通して、訪れた人々と関わりながら空間を作り上げていく、参加・体験型のアーティストプロジェクトです。いつでも誰でも、空間が変化し続けるクリエイティブな「つくりかけ」を楽しみ、アートに関わることができる表現の場です。



遠藤幹子「おはなしこうえん」の模型 2020年

5階



常設展示室

千葉市美術館の 3 つの収集方針――近世から近代の日本絵画と版画、1945 年以降の現代美術、千葉市を中心とした房総ゆかりの作品――に沿って集められたコレクション約 1 万点から、ハイライトを展示します。1 ヶ月おき（現代美術は 3 ヶ月おき）の展示替えにより、バラエティに富んだコレクションをご堪能ください。

草間彌生《最後の晩餐》1981年 千葉市美術館蔵

歌川国芳《相馬の古内裏》天保(1830-44)後期　千葉市美術館蔵

伊藤若冲《鸚鵡図》江戸時代 千葉市美術館蔵

ワークショップルーム ～みんなでつくるスタジオ～

自分の得意なことや好きなこと、ワクワクすることをみんなが持ち寄ることで作られていくクリエイティブなスペースです。絵の具あそびや陶芸、ダンスに演劇など内容は様々。ワークショップパートナー制度＊をはじめ、人と人、アートと人、地域と美術館がつながるプロジェクトが展開していきます。

〈＊ワークショップパートナー制度スタート！〉
2020 年度より、新たな制度がスタートします。ワークショップパートナーは、美術館とタッグを組み、それぞれの専門性が光る体験の場を企画する方々。「みんなでつくるスタジオ」を拠点に、幅広い年代の人たちへ、魅力的なプログラムを届けていきます。

みんなでつくるスタジオプレ企画
「ダンスであそぶアートする～ひかりとおどろう～」
（講師：長瀬陽子）の様子

また来年！ 「ジャポニスム－世界を魅了した浮世絵」展の延期

2020年夏、本来であれば東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて、千葉市美術館は、「ジャポニスム－世界を魅了した浮世絵」という企画展でリニューアル・オープンを迎える予定でした。本年1月より告知も始めていましたので、楽しみにしてくださった方も多くいらっしゃったことでしょう。ところが新型コロナウイルスの世界的な感染拡大という、半年前には思ってもいなかったことが起こってしまい、この企画を延期せざるを得なくなってしまったのです。

3年前から調査・研究を始め、出品交渉、準備をしてきたこの企画は、ジャポニスムの作品を通して、浮世絵の特性を明らかにしようというものでした。これまで西洋美術史の中で語られることの多かったジャポニスムですが、西洋の芸術家たちが浮世絵に出会った時、何に感動し、何を自らの美意識に取り入れようとしたのか。そこから見えてくる浮世絵の特殊性とは何か。浮世絵を得意としてきた当館が取り組むこのテーマは、ひとつの大きなチャレンジでした。

3月末までは、今年開催の可能性をあきらめてはいませんでしたが、延期を決心するに至ったのは、東京オリンピック・パラリンピックの延期という以上に、主に海外から借用する予定であった美術品が、感染拡大によるロックダウン(都市封鎖)により日本に輸送できないという、絶望的な現実でした。アメリカ東海岸からは、ニューヨークのメトロポリタン美術館、またニュージャージー州のラトガーズ大学ジマーリ美術館から出品される予定でしたが、ニュースでも伝えられたような深刻な感染拡大で、美術館職員も、現地輸送業者も動けなくなってしまったのです。

ホノルル美術館では、本年中の海を渡る作品貸し出しが中止された上に、連絡をとっていた方々を含めて、経験や実績に関わらず大量の職員が解雇されました。モスクワのプーシキン美術館からは、日本では珍しいロシアのジャポニスム作品も含め多くの作品が千葉に来る予定でしたが、やはりロックダウンは続き美術館も再開できていません。

フィンセント・ファン・ゴッホ《ムスメ(Musumé)》。プーシキン美術館自慢のゴッホのドローイングが、この夏千葉に来る予定でした。

4月のプーシキン美術館正面のバナー。ムスメさん！来年はマスクを取って千葉に来てくださいね。

残念ですが、言葉を失うようなこの深刻な状況下では仕方がありません。でも中止ではなく延期。これまでこの企画のために準備してきたことを、無駄にはしたくありません。来年(できればパワーアップして)皆様に必ずご披露したいと思います。

館内でも協議の結果、感染対策もしつつ、リニューアル・オープンは所蔵品による「帰ってきた！どうぶつ大行進」展でスタートすることになりました。世の中の状況から、不安な気持ちを抱えていらっしゃる方も多いと思いますが、少しでも明るい気持ちになっていただけるよう、気分をあらためて取り組んでまいります。

(当館副館長兼学芸課長　田辺昌子)

これからの予定 schedule

7月11日 オープン！

	2020.7	8	9	10	11	12	2021.1	2	3
企画展示室（7•8階）	千葉市美術館拡張リニューアルオープン・開館25周年記念 帰ってきた！ どうぶつ大行進 2020.7.11-9.6		千葉市美術館拡張リニューアルオープン・開館25周年記念 宮島達男 クロニクル 1995-2020 2020.9.19-12.13				千葉市美術館拡張リニューアルオープン・開館25周年記念 日・スロバキア／日・チェコ交流100周年 ブラチスラバ世界絵本原画展 こんにちは！チェコとスロバキアの新しい絵本 2021.1.5-2.28 千葉市美術館拡張リニューアルオープン・開館25周年記念 川村コレクション受贈記念 田中一村展 ―千葉市美術館所蔵全作品― 2021.1.5-2.28		第52回 千葉市民 美術展覧会 3.6-3.26
常設展示室（5階）	千葉市美術館コレクション名品選2020 ※近世・近代美術は1ヶ月おき、現代美術は3ヶ月おきに展示替えを行います。								
子どもアトリエ（4階）	つくりかけラボ01　遠藤幹子｜おはなしこうえん 2020.7.11-12.13						つくりかけラボ02　志村信裕｜影を投げる 2021.1.5-4.4		

■企画展「ジャポニスム―世界を魅了した浮世絵」延期のお知らせ
国内外での新型コロナウイルスの感染予防・飛散防止のため、当初予定しておりました企画展「ジャポニスム―世界を魅了した浮世絵」を延期することとなりました。楽しみにされていた皆様におかれましては、誠に申し訳ございません。2021年の開催に向け準備を進めておりますので、もう少しお待ちいただけると幸いです。

美術館の仕事を紹介します！

その8 休館中の報告

美術館がお休みしているあいだも、リニューアルオープンに向け、スタッフは全力で準備を進めていました。ここでは、数ある準備のなかから、3つのプロジェクトをご紹介します。

■ 画材キットで楽しく鑑賞！

筆ごとの筆致がわかる見本もつくりました。

画溶液のサンプルもそろっています。

贅沢なほど画材が詰まったキットが完成！

千葉市美術館では、毎年20校ほどの小中学校から、1,000人をこえる子どもたちの受け入れをしています。今年度から、新しい受け入れプログラム「みる・しる・できるびじゅつプログラム」がスタート。プログラムの実施にあたり、子どもたちが楽しく美術にふれられるよう、画材キットを制作することになりました。ホルベイン画材株式会社さんにご協力いただき、油彩画の絵の具や絵筆、筆致をじっくり堪能できるすてきなキットが完成しました！

■ びじゅつライブラリー怒涛の作業の日々

膨大なリストを整理する日々……。

新しい本が届き始めました！

本を並べると一気に図書室らしい空間に！

びじゅつライブラリーの準備は、手探りで始まりました。どのような本を置くのか、どのようなジャンル分けにするのか……。美術館にある図書室ということで、とにかく「美術の入口になるような本を揃える」ことを重視しました。とくに、人生ではじめて出会う美術ともいえる絵本は、力を入れて選びました。膨大なリストとにらめっこする日々を乗り越え（ほかにもたくさんの作業を乗り越え）、やっと本を並べることができました。子どもから大人まで楽しめる、充実した図書室です。

■「帰ってきた！どうぶつ大行進」ができるまで

チラシのデザインを検討中……。

このデザインに決定！

「ジャポニスム―世界を魅了した浮世絵」が延期となり、急きょ新たな展覧会を準備することになりました。千葉市美術館のコレクションを最大限に活かした「帰ってきた！どうぶつ大行進」は、2012年に開催された「夏休み特別企画　どうぶつ大行進」の続編的な位置付けです。近世～近代の絵画や版画を中心に、古今の多彩な動物イメージをご紹介します。展覧会は、本来、長い時間をかけて準備するものです。そのなかで、このような対応ができるのは、確かな調査や研究を重ねている成果にほかなりません。「帰ってきた！どうぶつ大行進」楽しんでくださいね！

■新しいロゴができました！

みんなでつくるスタジオ

びじゅつライブラリー

つくりかけラボ

新しいスペースとプロジェクトの愛称を広く知ってもらうために、ロゴを制作しました。ワークショップルームは「みんなでつくるスタジオ」、図書室は「びじゅつライブラリー」、そして子どもアトリエで開催するプロジェクト「つくりかけラボ」。デザインはLABORATORIESの加藤賢策さんです。たくさんの人に親しまれるロゴになりますように！

ボランティア日和

ボランティアをしていての楽しさは「子ども達の反応」です。

そもそも自分がボランティアに参加するきっかけになったのが息子の反応。全く美術に興味のないサッカー少年が学校で美術館に行った日、目をキラキラさせて帰宅。そして、「おもしろかったー！」の意外な発言。

その時の展示はドラッカーコレクション。水墨画ズラリのモノクロ世界…。何をおもしろく感じたのか、この高揚感はどこからきているのか、いったいどんな魔法をかけられたのか謎が深まるばかり…。当時小４の息子からはたいした情報を得ることは出来ませんでした。謎を解明するには内部潜入！ボランティアに参加する事となりました。

鑑賞教育に来るのは小学生が多いです。のびのび自由に思う事を発言してくれるので聞いていてとても楽しい。たまに担任の先生から「あの子があんな事言うなんて…」という感想を聞きます。学校とは違う反応を引き出せるのは良い機会です。

中学生位になると自由気ままに発言…という雰囲気でなくなります。でも終わってから感想を聞くと「正解が無いけど間違いも無い…と言われたから、自由に発言できた。だから満足！」とか「授業では発表する人が決まっているのであえて手は挙げない。だけど、ここでは自分だけの発言の場を与えてくれるので嬉しかった。」等、自分の思いを発するのに思いの外抵抗がなかった事に驚かされたりします。

このように内部潜入に成功したものの、未だ魔法の杖は見付からず、子どもの心を開くのに日々精進。

我々ボランティアは美術の勉強は勿論、子ども達への接し方、言葉のかけ方等様々な事を学び話し合っています。

これからも美術館が子ども達の憩いの場の一つになる事を願って活動していきます。

［ボランティア　日高まり子］

ボランティアスタッフ募集のお知らせ

千葉市美術館では、来館者や市民の皆様と美術館をつなぐため、「美術館を楽しもう！」を合言葉に、現在42名のボランティアスタッフが活動しています。小中学生のグループ鑑賞をサポートする鑑賞リーダー、展示室でのギャラリートーク、作品やコレクションに親しむためのワークショップの企画運営など、活動は多岐にわたります。

2021年度より6期メンバーとして新たに活動に加わってくださる方を募集することになりました。2020年度に養成研修を予定していますので、関心のある方は、募集要項（市内各施設にて配布／美術館ウェブサイトにも掲載）をご覧ください。